

福島県PTA連合会会報  
第73号\_H19.07.17

# PTAふくしま

## 第73号

福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所

## 親子ふれあい体験教室



平成18年度県P連  
「活動スローガン」  
実践より

- おもちゃを作ろう
- 親子工作



「提供 福島市立森合小学校」

### 《主な記事》

県P連会長あいさつ・新役員紹介	P 2
第42回広報紙・学校新聞コンクール受賞校紹介	P 3
県P会長退任にあたって・日中友好少年少女の翼に参加して	P 4～5
第56回PTA研究大会いわき大会案内	P 5
事務局から	P 6

県P連活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA活動を

●県PTA連会長あいさし

「誇れること」と「言行一致」



福島県PTA連合会

会長 根本 紀太郎

こんにちは。福島県PTA連合会会員の皆様。「ねもときたろう」と読みます。本年度、会の責任者という役割を担わせていただくことになりました。予期せぬ出来事で、未知のことも多く、まだ戸惑いもあります。しかし、一つずつ勉強しながら務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

私ごとになりますが、中学校時代の体験を記させていただきます。私は剣道部で、顧問の木下弥先生(故人)より、とても熱心なご指導を受けました。一年中ほとんど休みはなく、日々も稽古は授業前と放課後の一日二回で、内容はとても厳しいものでした。しかし、退部する生徒は一人もなく、振り返ると、辛かったという気持ちより、充実感でいっぱいになるのです。なぜ三年間、私たちはやり遂

なつたのだと、今だから思えるのです。

高校入学後に剣道を中断してしまつた私ではありますが、「中学校三年間、本物の先生のもとで最後まで部活動を続けることができた。」ことが、ただ一つの誇りであり、生きていく支えとなつていきます。また「人は言行一致でなければ信頼されない。」ということも学ぶことができました。

げることができたのでしょうか。先生はご自宅から学校までの十数キロを、毎日自転車で行われておりました。毎朝稽古にも時間どおりおいでになり、放課後も最後まで稽古をつけて下さいました。当時のスケジュールを考えると、先生は午前四時半にはご自宅をたたれ、ご帰宅は早く午後九時半ごろであつたと推察されます。ご自宅でもなさつていたのであろう授業研究などのことも考えあわせると、睡眠時間がいかに少なかったのかと驚かされるのです。何しろ先生は、国語の授業も超一流だったので、中学生の私たちは、そのようなことには考え及びませんでしたし、先生もご自分の努力を語ることはありませんでした。しかし、すさまじい努力に裏づけられた、「おっしゃること」と「な

それが三年間やり続ける原動力に

PTA活動においても、各学校には、これまで積み重ねられてきた『誇れること』がたくさんあるはずですが、ただ、ごく普通のことになつていて気づかなかつたり、忘れてしまつていくことが多いと思うのです。ですから会員の皆様、各学校において『誇れること』を見つめなおしてみませんか。きつとその再確認が励み・エネルギーとなり、そこからの活動で『新たな誇れること』が生まれるとともに、『誇れること』がはつきりする中で、言葉への責任が芽ばえ、より整合性ある行動をとれるようになるのではないのでしょうか。

後から生まれてきた小さな人たちは、先に生まれている私たちの言葉と行動をよく観ています。彼らそして自分のためにも、自らに「誇り」を持ち、より言行一致をしていきたいものです。ありがとうございます。

平成19年度 福島県PTA連合会役員一覧

副会長	監事	日本P評議員	母親代表	顧問	理事	副会長	会長
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
金子 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
根本 紀太郎	浪岡 真澄	松本 英一	古川 美由	林 憲一	伊藤 博文	佐藤 辰夫	伊藤 博文
佐藤 直毅	大野 明要	吉田 士潔	若林 美由	藤田 祐子	大藤 貞治	大藤 貞治	大藤 貞治
金子 雄一	清野 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦	青砥 安彦	青砥 安彦
小島 雄一	日下 龍一郎	阿部 英一	丹治 さつき	小松 良孝	青砥 安彦		

第42回県PTA広報紙  
 学校新聞コンクール  
**晴れの受賞校**

第四十二回PTA広報紙・小  
 中学校新聞コンクールは、平成  
 十九年四月十八日福島民友新聞  
 社で、福島県PTA連合会、福  
 島民友新聞社主催のもとで審査  
 が行われた。  
 応募作品は、PTA広報紙に  
 百五十六点、学校新聞に三十六  
 点の応募があり、審査の結果、  
 以下の二十五点が入選した。

**〔PTA広報紙の部〕**

◇最優秀賞

- 「ほおの木」(耶麻・喜多方二小P)
- 「S A Z A N K A」(福島・平野中P)

◇優秀賞

- 「和多里」(福島・渡利小P)
- 「桜 水」(岩瀬・須賀川一小P)
- 「城北時報」(会津若松・城北小P)
- 「ひらくぼ」(いわき・平四小P)
- 「信 陵」(福島・信陵中P)
- 「大 樹」(いわき・平一中P)

◇入 選

- 「一 誠」(福島・福島一小P)
- 「せいめい」(福島・清明小P)
- 「まつかさ」(伊達・柱沢小P)
- 「りんどう」(安達・安達太良小P)
- 「たちばな」(郡山・橋小P)
- 「はちのす」(西白河・白河二小P)
- 「かつら」(西白河・関辺小P)
- 「いずみ」(いわき・泉小P)
- 「しゃくなげ」(福島・岳陽中P)
- 「いずみ」(郡山・郡山二中P)
- 「牡丹樹」(岩瀬・須賀川三小P)
- 「ひばり」(大沼・新鶴中P)

**〔学校新聞の部〕**

◇最優秀賞

- 「独立自尊」(伊達市立霊山中学校)

◇優秀賞

- 「茂庭大杉新聞」(福島市立茂庭中学校)

◇入 選

- 「多田野小だより」(郡山市立多田野小学校)
- 「すくらむ」(白河市立東北中学校)
- 「南郷中学校だより」(南会津町立南郷中学校)

**喜多方二小「ほおの木」**

喜多方市立第二小学校

「誰もが読みたくなる紙面」を  
 目指して、これまでの編集方針を  
 尊重しながら、家庭で学校やPT  
 Aなどの行事を、親子で話し合っ  
 てもらえるような、「楽しく、見  
 やすい」広報紙作りに、部員一同  
 が専念しました。

毎月何の行事があるかの確に  
 チェックし、ある程度記事の内容  
 を絞り込んでおき、写真の手配  
 等、毎号の第一回目の企画会議に  
 は下準備を十分に行って望みまし  
 た。それを、各自責任感を持って、  
 各班、班長さんを中心に積極的に  
 編集作業を行いました。

**平野中「S A Z A N K A」**

福島市立平野中学校

平野中学校会報「S A Z A N K  
 A」は、年二回の発行で、その他  
 に学校行事の度に号外を発行して  
 います。行事に合わせて取材を  
 し、できるだけ生徒の声を聞きな  
 がら写真撮影をしています。生徒  
 の学校での様子やPTA活動の内  
 容などをわかりやすく楽しんで読  
 んでいただけるような紙面作りを  
 工夫しています。

「S A Z A N K A」第七十二号  
 は、特集を、食に関する教育Ⅱ食  
 育をテーマに考えてみました。  
 校長先生や養護教諭の先生にお  
 話を伺い、学校から家庭に伝えた

本校の広報部長は一年任期のた  
 め、毎年その部長さんの特色が出  
 ます。

年四回の発行を、毎回三回毎の  
 編集会議の中でまとめあげていく  
 には、あまりにも時間が足りま  
 せん。絞り込んだ特集など時間の  
 かかるものはなかなか出来ないの  
 が実情です。

今年の特徴としては、なんと  
 いつも保護者にかいてもらった  
 初の似顔絵のイラストを取り入れ  
 たことです。それによって、温か  
 みのある紙面に仕上がったと思  
 います。

また、コスト削減のため文字の  
 入力や各ページをパソコンで部員  
 が自ら作成するなどして、データ  
 持ち込みによる予算内のカラー印

刷を実現出来ました。レイアウト  
 を工夫し、写真も厳選し、色使い  
 もさわやかさを心掛けて、あまり  
 凝り過ぎず、くどくならないよう  
 に配慮しました。

本当に、いろいろなことに気を  
 くばりながらの一年間は、緊張の  
 連続でした。しかし、和気あいあ  
 いと楽しい一年間でもありました。

その結果思いもよらず、このよ  
 うな素晴らしい賞をいただいて部  
 員一同大喜びです。これもひとえ  
 に、ご協力いただいたPTA役員・  
 会員の皆様と先生方の適切なご指  
 導のおかげだと心より感謝いたし  
 ております。これを機会に今後も  
 さらなる発展を期待しております。  
 ありがとうございます。

(十八年度広報部長 上田ひとみ)

読んでいただいた保護者の皆様  
 にも好評で、私たちも大変嬉しく  
 思っています。

また、カラー紙面では、全体的  
 に目を引く色や技法を使い、イラ  
 ストや写真を組み合わせて、わか  
 りやすく表現することに心掛けて  
 います。これらのことを駆使しな  
 がら、何が知りたいのか、何を伝  
 えれば良いのかを考えて、「S A  
 Z A N K A」を情報発信元とした  
 広報紙作りを目指していきたいと  
 思っています。

この度は、光栄にも最優秀賞を  
 いただきました。ひとえに、保護  
 者の方々、先生方にご協力いた  
 いたお陰です。本当にありがとう  
 ございました。



## 「退任にあたり」

前福島県PTA連合会長 宮本 孝

県の会長としての二年間、皆様には大変お世話になりました。特に昨年の東北大会では、予定した人数より二百名以上多いご参加をいただき、大会を成功に導いていただきましたこと、主催者として、あらためて御礼申し上げます。

私個人としては、昨年度は郡山市と福島県と東北と連合会長を兼任し、日本PTA全国協議会でも理事と教育問題委員長を任せられ、大変忙しい一年となりました。東北大会の準備を進めながら、それぞれの役職の仕事や付随するあて職もこなしていかなければならず、職場では本業がPTAと言われる始末でした。当然職場や家庭には迷惑をかけることとなりましたが、それでも得難い貴重な経験ができたと思っています。

今、教育行政は迷走しています。学校週五日制をはじめ五年前からの改革は、当然学力の低下と格差を生みました。一般の学力を犠牲にしても「生きる力」を子どもたちに与えようとした改革だと、私は思っています。残念ながら、「生きる力」の定義は難し

く、それを数値に表すこともできません。教える側も苦労されていることと思います。しかし、こうなることは、教育行政に携わる者はわかっていたはずで、ここ十数年間の文部科学省や政治家の責任は重大です。

現首相は、教育改革の重要性を強く認識し、積極的に動こうとしています。中教審がありながら、教育再生会議を設けたのは、その強い意志の表れなのでしょうが、この二重構造も関係者には混乱をもたらしています。教育にちゃんと向き合おうとする姿勢は評価されるべきですが、なかなか思い通りには事が進まないようです。マスコミも自分たちの無責任さを深く反省し、政府の対応をただ批判するだけでなく、悪いことはしっかりと分析し、良いことは積極的に後押ししていく気構えを持たないといけないと思います。子どもたちの未来に対して、全ての大人がもつと責任を持たなければいけません。

今年の暖冬の様子を肌で感じて、今の地球は、まさに危機的状況にあると恐ろしくなりました。それは人間のエゴが作り出したものです。自分だけが良ければいいという独りよがりの考えが、子どもたちの未来から、美しい自然や住みよい環境を奪おうとしています。日本の社会が安全で無くなってきたのも、同じように個人を優先させる考えが人の倫理観を狂わせてきたせいだと考えます。人は一人では生きてゆけません。大勢の人間の支えがあり、人間以外の多くの生命の力もいただいで、なんとか生かされているのです。今だからこそ、人間は、利己的な経済優先の発想を捨てて、他の人々や他の生命と協調して生きることの大切さを、しっかりと確認すべきであると私は考えます。

PTAに何ができるか。世の中を変えていくのは難しいことだと思いますが、これだけ大きな組織も他にはありません。私たちの愛する子どもたちのために、皆が手を携えて向かっていけば、必ず良い方向が見えてくるはずで、お忙しい中、会長職を引き受けていただいた根本会長をはじめ新役員の皆様、頑張ってください。



日中国際交流事業「日中友好少年少女の翼」に、今年是小室由香里さん(石川・浅川中)と鈴木宏昭くん(東白川・埴中)が参加しました。お二人に感想を聞いてみました。

## 少年少女の翼に参加して

浅川町立浅川中学校

三年 小室由香里

中学校三年生になろうとしている春休み。五泊六日の短い期間で、壮大な中国の大きさ、そして文化に触れ、それは私にとつてかけがえのない思い出になりました。

私は、中国に行く前に「会話」が成立するかという大きな不安を抱いていました。しかし、一日一日過ぎていくうちに、不安は消え、「楽しさ」というものに変わってきました。

私は北京訪問で日本との違いをたくさん知ることができました。まずは、交通についてです。日本では、交通ルールを守ることは当たり前ですが、中国では交通ルールを守る人が少ないと感じました。日本では、歩行者が優先しますが、中国では勇気のある人がわたります。二つ目は、通信についてです。日本では、電話をかける人だけにお金がかかりますが、中国では受ける人にもかかります。三つ目は、食文化についてです。

中国の料理は四つあります。北京・広東・上海・四川料理です。それを長い箸で一つのお皿から自分の分をとって食べるということ。日本とはまったく違う味付けや辛さに戸惑いました。最後にトイレのことです。日本ではあたりまえのように使っているトイレ、中国ではお金がかかります。しかも、壊れているトイレが多く、とても不便だと思いました。その他にもたくさん違いがありました。

私が一番心に残っていることは、北京の中学生と交流したことです。中国の中学生は英語がとてもし上手で戸惑いましたが、ボディランゲージや筆談などで自分の気持ちを伝えることができました。中国の中学生は、日本人と比べて堂々としているなど感じました。交流会でステージに一人で上がり歌を歌ったり、ピアノを弾いたり、私には恥ずかしくてできませんでした。

今回の研修で、私はいろいろなものを得ることができました。普通だったら会うこともできなかった

# 第56回PTA研究大会いわき大会のお知らせ

雄大な太平洋に抱かれたサン

シャインシティいわきで今年度、

県PTA研究大会いわき大会が、

開催されます。いわき市では、豊

かな未来社会を切り開いていく心

豊かでたくましい子どもの育成に

向けて、わたしたちPTA活動の

真の姿を希求し、実りのある実践

活動の発表や情報交換を通して福

島県のPTAを創造する意義ある

大会にしたいと願っております。

駐車場等、何かとご不便をおか

けすることと思いますが、会員の

皆様の多数のご参加をお待ちして

おります。

化を図ろう。

☆提言十グループトークン

## 2 研修活動 (中央台北中学校)

☆講演 思春期の家庭教育を考えよう。

☆講演

## 3 家庭教育I (中央台南中学校)

☆講演 家庭の子育てと地域の子育てに

ついて考えよう。

☆バスセセッション

## 4 家庭教育II (中央台東小学校)

☆講演 子どもたちの望ましい生活習慣

を形成しよう。

☆パネル十グループトークン

## 5 健全育成 (中央台南小学校)

☆講演 地域で子どもたちの安全を見守

ろう。

☆パネルディスカッション

## 6 特別支援教育 (いわき光洋高)

☆講演 特別支援教育への理解を深め、

共に学ぶ環境づくりを推進しよう。

☆パネルディスカッション

## 7 特別課題 (中央台南中学校)

☆講演 いじめ問題について考えよう。

☆提言十グループトークン  
以上、七分科会で行います。

## ◇記念講演

演題：「地球のステージ」(映

像と音楽と語りで織りな

す世界の子どもたち)

講師：NPO法人「地球のス

テージ」代表理事

医学博士 桑山 紀彦氏

九十六年一月より始められた映

像と音楽を使って世界の紛争、貧

困地域の人々の姿を知ろうとい

う、NPO法人「地球のステージ」

が運営している開発教育系プロ

ラムです。世界五十カ国を歩き、

医療救済活動を展開してきた桑山

紀彦氏がとりためた映像と写真、

オリジナル曲で構成される新しい

形式のコンサートです。

## ◇宿泊について

「第二案内」でお知らせいた

しましたとおり、湯本温泉の各宿

泊施設になります。宿泊施設の割

り振りは一任させていただきます

ようお願いいたします。

## ◇大会事務局

「いわき市立平第一中学校」

〒970-8026

いわき市平字揚土一番地

(TEL)0246-123-1744

(FAX)0246-121-4361



塙町立塙中学校  
鈴木 宏昭

たはずの人たちと会い、初めは話  
しづらかった人も、話をしている  
うちにその人の良いところなども  
分かってきて、打ち解けることが  
できました。「風景」「出会い」「友  
情」は、これからの人生をきつと  
大きく変えてくれると思います。  
本当に貴重な体験をさせていただ  
きありがとうございました。

僕は、春休みに全国から集まっ  
たたくさんの人々と中国へ訪問し  
てきました。中国では様々な所へ  
訪問することができ、良かったと思  
いました。最初はとても不安で  
したが、いろいろと話していくた  
びに、仲良くなっていきだんだん  
不安もうすれていきました。  
出発の前日は、ホテルで結団式  
が行われ、中国へ行くという実感  
がわいてきました。そして、中国  
へ行き、印象に残った所は、まず、  
一つめは「万里の長城」です。「万  
里の長城」はとても長く、高いも  
のでした。そしてこれを人の力で  
造ったということを知り、とても  
おどろきました。あと、登るとと  
ても高く足がすくみ怖かったで  
す。

次に、天安門広場と天壇公園で

す。この二つの場所は、とても広  
く、たくさんの方がいました。あ  
と、たくさんの方が入ることがで  
きる広さだったのでおどろきまし  
た。他にも少年宮などの様々な所  
へ行きましたが、おどろくことが  
たくさんありました。

他に、食事や言葉、生活なども  
日本の文化とは違いがありまし  
た。まず、食事では中国のものは、  
味がうすくかんじました。味覚が  
ちがうので食べておいしいと思っ  
たものや、あまりおいしくないもの  
もいろいろありました。言葉は、  
中国から漢字が来たというだけあ  
り、わかる漢字もあり、少し通じ  
るものもありました。わかっても  
らった時はうれしかったです。他  
にも生活でも、水は市販の水しか  
飲むことができず大変苦労しま  
した。

中国に行っていた日はすぐにす  
ぎてしまいましたが、とても充実  
したものだったのでよかったです。  
そして、この日中友好がずつ  
と続けば良いと思います。この日  
中友好のおかげで様々な都道府県  
の人と友達になれてとても良かつ  
たと思います。これからも、で  
きた友達に再会できるようにした  
いと思います。そして、また、こ  
のような機会があれば参加したい  
と思います。この体験をこれか  
らの生活にいかしていきたいで  
す。

### 平成19年度 県P連行事予定

月	主 な 行 事	
6	評議員会①	6(水)
	小中学校別懇談会	29(金)午前
	理事会・常置委員会①	29(金)午後
7	役員・総務委員会合同会	10(火)
8	日P研究大会滋賀びわこ大会	24(金)
		・25(土)
	郡市P母親代表者懇談会	30(木)
9	東北P研究大会仙台大会	7(金)
		・8(土)
10	理事会・常置委員会②	12(金)
	県P研究大会いわき大会	13(土)
		・14(日)
11	県教育長との懇談・要望	日時未定
	県議会各派への要望	〃
1	理事会・常置委員会③	24(木)
2	評議員会②	22(金)

※会報発行は、7月、12月、3月の3回の予定です。

# 安全互助会から

福島県PTA安全互助会は、募集案内・入会手続きの時期、方法等を変更して二年目となりました。

## 万が一、事故が発生したら

①学校に連絡してください。

多少のトラブルはありましたが、おおむね順調に手続き事務が進められました。担当された先生方に厚く御礼申し上げます。

次年度も、今年度の反省を踏まえ、スムーズに加入手続きができるようにしていきたいと思えます。なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

学校管理下外(ただし登下校を含む)の事故に対しての補償となるため、保護者からの連絡を受けて手続きをすることになります。けがや賠償事故が起きてしまつたら、まず担任の先生に連絡してください。

各学校には、担当の先生がおりますので、その先生を通して安全互助会に報告されます。

②事故報告書はFAXで

報告書には、「傷害事故報告書」と「賠償事故報告書」の二種類あります。

FAXいただいた報告書を見て、該当の有無や必要な手続き等について回答いたします。それに基づいて申請事務を進めます。

### 【傷害事故】

学校の管理下外(家庭内、休日、スポーツ少年団、登下校時等)での急激かつ偶然な外来の事故によるけがを補償します。

熱中症、低温やけど、腱鞘炎、疲労骨折、骨粗しょう症を原因とする骨折などは、急激かつ偶然な外来の事故に該当しないため、保険金支払の対象とはなりません。

### 【賠償事故】

日常生活での学童の行為によって生じた偶然な事故(ただし、学校管理下の事故は対象外)により、学童(保護者)が第三者に対して法律上の賠償責任を負った場合の補償をします。

③PTA会員の事故の場合

PTA主催・共催の事業に参加しての事故に限定されます。なお、自宅を出て帰宅するまでの間も含みます。

見舞金などの申請にあたってはPTA主催・共催事業であるという関係書類の添付が必要となります。

## 入会申し込みの流れ

入会案内	1月20日頃、各単Pへ送付予定
申し込み	3月10日(4月1日で契約、補償開始 その後の人数の変更は、5月1日まで報告) ※加入コースは、この時点で決定願います。
会費納入	5月末日(会費納入をもって、契約完了となります。)
補償期間	4月1日～翌年4月1日 ※5月末日までの会費納入をもって、4月1日からの補償となります。

## 編集後記

昨年十一月、日本PTA全国協議会(日P)が、教育に関する保護者の意識調査を実施しました。「家庭教育」に関して、家庭での教育において大切なことは何かをたずねた設問に対し、第一位は、「あいさつやお礼を言うこと」(八三・六%)、次いで「約束を守ること」(六二・五%)、高い割合であげられています。以下、「自分のことは自分でする」(四六・〇%)、「規則正しい起床・就寝」(四三・九%)、「朝食等、食事をきちんと食べること」(四二・一%)と続いています。

皆様のご家庭では何を大切にされているでしょうか。それぞれの家庭で大切にされていることが、お子さんに理解され、実践に結びついているでしょうか。「あいさつ」一つとっても、しっかりできてきている子の目は輝いています。(T・H)

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険株式会社

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3023